



夕刊

発行所 中日新聞社
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
〒460-8511 電話 052(201)8811

紙づて

二〇〇四年、新しいピアノが到着した。創業から四半世紀のファツィオリというイタリアのメーカーのグランドピアノだ。

このピアノは「こだわりの塊」といえる。音を共鳴させるための「ピアノの命」である響板には、バイオリンの名器ストラディバリウスと同様に、北イタリア産の「赤トウヒ」という松の仲間を使っている。手間を惜しまず手作りするため、年間百台程度しか製造されない。

希少なファツィオリの所有者になった経緯は、名古屋大学赴任当時にさかのぼる。子供のころに習っていたピアノを再開し、日本では無名のチエコ製グランドピアノを弾いていた。だが、本来の音色が出ない。納得のいく音に仕上げてく

こだわりのピアノ

もり 郁恵

れる調律師を探すうち、とうとう、高い調律技術と豊かな芸術性を持つ狩野真さんにたどり着いた。

それから六年。音大で教える師匠から、ドビュッシーの前奏曲をレッスンしてもらっていた。私の技量では、低音の上に高音の不協和音を奇麗に寄せられない。そんな折に狩野さんから「ファツィオリが日本に入荷する。どうしますか？」と連絡が来た。

人との出会いは不思議なものだ。国際的に活躍するこだわりのピアノ技術者が、ピアノにこだわる私に、こだわりのピアノを届けた。なんだか偶然とは思えない。

ファツィオリで弾く不協和音は、とても美しい。弾き方を変えると、音色の表情が如実に変化する。ピアノが、もう一人の師匠になった。

(名古屋大教授)

2011.1.21

2011年1月21日 1面 No.3